

小津安二郎と津

津市長 前葉 泰幸



小津安二郎(1903-1963)は日本を代表する映画監督です。2012年には、代表作としてあげられる『東京物語』が英国映画協会発行誌の権威あるランキングで世界の映画監督が選ぶ映画の1位に選ばれるなど、「世界のOZU」として高い評価を受けています。

安二郎は松阪の豪商小津家の末裔として東京に生まれました。父は本家が深川で営む海産・肥料問屋の大番頭。9歳からの10年間は「教育は田舎で受けるべし」という父の方針のもと、母兄弟とともに郷里で過ごします。松阪の小学校に転入し旧制宇治山田中学を卒業、飯高で代用教員を務めましたが、その間たびたび津を訪れています。

安二郎の母方は津の出身です。祖母は美杉地区八手俣の北畠家御典医で庄屋、茶業も営む名家萩野家の長女。懇意であった南家城の旧家岩脇家から婿養子を迎えたものの、夫が早逝。娘のあさゑを連れ、同じく茶業を営む宿屋町の中條家に再婚します。津の伊勢商人御三家に数えられた中條家は、現在の東丸之内、津観音の南、フェニックス大通りと大門アーケードの通りが交差するあたり

にありました。

安二郎の日記には、宿屋町の祖母宅でご馳走を堪能し、近所の「新世界」や観音さん境内の「大正館」といった映画館をハシゴしたことが綴られています。戦前の写真や当時の地図を見ると、私の本家の紙平呉服店はちょうど中條家のお向いにあったようです。実家に子どもたちを連れて来た母あさゑや安二郎と私の先祖とが言葉を交わしたことがあったのかも知れない、そんなご縁を感じています。

小津安二郎はなんでもない家族の日常を端正に描き、洗練された芸術作品に仕上げました。派手な演出や意表を突く仕掛けとは無縁の美しい映像をゆったりと見つめているうちに、いつの間にか心のひだにじんわりと染み入ってくる感情に気づき、それを大切な人に伝えたい想いに突き動かされます。故郷での豊かな暮らしで培われた小津監督の美意識と人生観は、新旧の価値観が混在する都会で磨き抜かれ、家族の在り方について、時を超え、国境を超えて問いかけることのできる感性として昇華されたのでしょうか。

昨年春、小津安二郎と津市との関わりを刻む記念碑が大門の観音さん境内に建立され、「彼岸花映画祭in津」が毎年開催される運びとなりました。その2回目となる10月9日、映画音楽の名曲コンサートと『東京物語』の上映会が三重大学三翠ホールで催されます。入場無料。秋の1日、世界が認めた巨匠・小津安二郎の世界を実感してみたいかがでしよう。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

市長の活動日記から

✓ プレミアムG1第30回レディースチャンピオン
優勝者表彰式(ポートルース津)…8月7日



女子王座決定戦「レディースチャンピオン」が開催されました。52人の女子トップレーサーが津に集結。キャッチフレーズ「闘う本能が、花開く。」にふさわしい熱戦を繰り広げ、最高クラスのレースに場内が沸き立ちました。

✓ 吉田沙保里選手 リオデジャネイロオリンピック市民応援観戦会(一志農村環境改善センター)…8月18・19日

会場からは市民600人が夜を徹して「さおちゃん、頑張れ!」と大声援を送り、試合終了後も「ありがとう!」の拍手が鳴り止みませんでした。

新たな一歩を踏み出す吉田選手に津市も大きなエールを送り続けます。



✓ 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」
知事との1対1対談(美里中学校)…8月19日



今年度の知事との1対1対談は、来春開校予定の義務教育学校「みさとの丘学園」で行いました。同学園への支援・協力をお願いするとともに、社会基盤整備事業の予算拡充、福祉医療助成の対象拡大について協議しました。